



# しらら



おまわりさんと先生から正しい道路の歩きかたを聞く1年生

## 新入学児童の交通事故をなくしよう

四月に小学校へ入学する一年生は本校では84人悲れおられます。この子らを悲しむに堪えなから、交通事故の犠牲にさせないよう、交通安全の指導を徹底して行なうことといたします。

子どもたちは、学校の先生の教えることは忠実に守ります。学校では道路の正しい歩きかたをはじめ、初歩的な交通ルールについては相当な時間をとって教えておりますので、子どもをもつ家庭でも学校で教えることに基づいた指導に心がけることです。

身近な例としては、毎日の新聞やラジオが知らせる県内の交通事故を話題にしなが、交通ルールをこの必要性をかみくだいて説明するとともに、外出の時は美地にその場にあわせた指導につとめることです。また保護者が心がけてほしいことを挙げてみます。

### 初歩的な交通ルールを教えましょう

着用させること。

- ① すこし早目に送り出すこと
- ② 持ちものはできるだけ少なくすること。
- ③ 出がけにしっかりと、せきたたたりしない。
- ④ 忘れないうで、車に気が付いてね、などの声をかけて送り出すこと。
- ⑤ 雨の日は運転者からよく見えるように黄色の雨具など

### 学校へ送り出すとき

- ① 子どもの交通事故は、通学時より帰宅後の事故が多くなっています。とくに遠出のときより自宅の付近で遊んでいるときの方が事故が多いので安心できません。
- ② 帰宅のあいだつを励行させる。
- ③ 外出先と帰宅時間を守るさせること。
- ④ 遊び場はよく確かめて危険のないところをえらんで遊ばせる。
- ⑤ 兄弟、友人とケンカが多い子ども

### 家に帰ったら

子どもに交通安全の意識を植えつけるには、保護者は、自分の子どもが帰ってきたとき、また低学年のうちは道路で乗せないこと。



3月 No.92

# 村ぐるみで子どもの健全育成を

## 青少年のしあわせを守り

### 教育を高める大会

青少年のしあわせを守り、教育を高める大会は二月十七日、十三公民館で開かれました。

話し合いは「あすを築く若い力を伸ばすためには、それぞれの領域における活動はどうあればよいか」というテーマで、子ども会、PTA、青年団、家庭婦人の代表四人からそれぞれ意見がのべられました。



150人が参加して開かれた青少年協の大会

子ども会の代表は、中学校は全寮制のため子ども会の活動に参加しにくいので夏休み、冬休みの休暇を利用して参加させてほしい。そのため使っていない公共施設を転用して子ども会館をつくってもらいたい。また、子どもの非行化をなくするために、家族ぐるみでよい家庭環境をつくる必要があり、それには親の生活態度が大きく影響することが話し合われました。PTAからは、子どもの力をのばすためにPTAを強化すべきで、脳元小学校では教育目標を父兄のアンケートを基にし、住民サイドの教育を進めていることがのべられ、相内小学校からは「親子文集」やPTAだよりを発行して学校とのつながりを深めていると報告されました。



表彰を受ける緑のおばさん

また、青年団からは出かせぎ等で団活動が停滞しているので、在村している青年だけでも集まれる中央青年学校を開設してほしい。グループ活動をさかんにすることが団活動をスムーズにさせる一などが話し合われました。

家庭婦人の立場からは、年間をとおして婦人学級を開いてほしいが、生活の場が学習であるという考え方が婦人の地位向上につながることに話し合いが集中しました。

そのほか、婦人自らの教養を高めるためには、あらゆる機会や会合にも積極的に出席することが大切であることも確認しました。

### 佐藤進吾さん らを表彰

大会ではつぎのかたがたが表彰されました。  
▽佐藤進吾さん(相内)  
▽近代的な農業を進め、農業後継者の模範。  
▽葛西敬太郎さん(脳元)  
―長い間PTAの指導者として尽力。  
▽湯浅うめさん(十三)  
―子ども会や婦人会の役員として地域活動を推進。  
▽奈良忠義さん(太田)  
―PTA副会長をつとめる

かたわら子ども会の育成に努力。  
▽金木地区交通指導隊市浦中隊、市浦村交通整理員  
―通学する子どもの交通安全確保に努力。

### 季節のあそび

◇皮肉なことですが新聞に交通事故の記事が載っていない日を見つけるのは大変なことです。  
◇とくに、小さなお子さんの交通事故は毎年ふえています。かわいらしい年生が交通事故でけがをしたり生命を失ったりすることはなんとしてもふせがなければなりません。子どもが交通事故から守るにはどうすればいいか、一緒に考えてみましょう。  
◇まず、実地にお母さんかお父さんと学校までの道路を一緒に歩いてみることで、そして、くりかえしくりかえし、習慣化するまで教えます。  
◇とくに低学年のお子さんですと忘れ物と一緒に、道路のまん中からでも急に引き返す場合がいちばん危険です。  
◇登校時よりも下校時に事故が多いのも、解放感が気のゆるみを引き起こしているようです。

出かせぎ前に子どもと接触を!

# お父さんだけの授業参観日

## 脇元小 先生との交流で大きな成果



授業参観のあとずらりと顔をそろえたお父さんたち

—全体会議場—

脇元小学校では、出かせぎ先から父兄が戻ってきている一月から三月までの間に「父親授業参観日」を開き、日ごろの子どもの成長ぶりや勉強ぶりに接していないお父さんたちから大変喜ばれています。

村の出かせぎ者数は七百人を超えています。脇元小が、磯松地区からの出かせぎ者も二百五十人を数えます。そのほとんどは、四月から十二月までの「夏型出かせぎ」で、児童の家庭では九カ月間、お父さんのいない日が続きます。したがって毎月の授業参観日に集まるのは、お母さんやおばあさんばかりです。そこで、出かせぎを終

先生の顔を初めて見る人も

最初の参観日は一月三十一日でしたが、約八十人のお父さんが集まり、熱心に子どもを勉強ぶりを見ました。なかでも新しい校舎とその施設のよいのびづくりする人もいました。また担任の先生の顔も知らない人がほとんどだったので先生とお父さんたちの交流で大きな成果をあげました。

### 一年間の行事をスライドで

二回目は三月六日でした。出かせぎ前の最後の参観日とあつて約九十人のお父さんが参加しました。この日のハイライトは「脇元小の一年間」と題するスライドの上映でした。お父さんたちが、遠い所で仕事に精出して、このころ、四月の入学式、始業式から始まり、楽しかった運動会、遠足、学芸会、もや山のお

山かけ、修学旅行、五所川原にある「少年自然の家」での合宿など、学校行事が時を追って繰り広げられ居ながらにして子どもたちの一年間が、手に取るように細かく見えています。続いて開かれた学級別の懇談会でお父さんたちは「出かせぎ先で子どもたちの

新入学児童をもつ家庭では、なにかと心づかいをされていることと思いますが、入学前に次のことはぜひ心がけるように。△自分の身のまわりのことは、自分で始末ができるよう習慣をつけておく。△衣服については、人の助けを借りなくてもできるようにしておく。△自分の名まえを書けるようにしておく。

### 新入学児童をもつ家庭へ

△ひとりりで安全に通学ができるよう、通学道路を実際に歩いて、交通のきまりや危険な場所をよく教えておく。△入学前の健康診断を

受けさせ、異常があれば早く治療しておく。△文字や数は無理に教えこむことを避け、日常生活における身近なことからや物を通して、自然のうちに覚えるようにする。△学校は楽しいところということを理解させ喜んで学校に行けるようにする。△学用品の準備については、親の見栄から高価なものを求める傾向がありますが、入学後先生の指示にしたがって整えることが必要です。子どものためには丈夫で実用的な、しかも使いやすいものを選ぶことが大切です。

ことが気がかりだったが、たかたか四月からまた出かせぎに行ける」とほめた。お父さんたちは、このように、お父さんだけの参観日を通して、先生との交流で大きな成果をあげました。



商工会球算検定合格者

太田小六年

## 土岐よしえさん二級に

- ▽二級  
土岐よしえ(小田小)
- ▽三級  
奈良るみ子(市浦中)佐藤よし子、成田武史(相内小)
- ▽四級  
小寺朱美(十三小)工藤佳久子(市浦中)葛西時江子、石岡純子(脇元小)山宮崎綾子、清野貴子(十
- ▽五級  
福井順子(市浦中)葛西奈緒子、萬谷ゆり子、工藤綾子(脇元小)木村香世子、奈良ゆり、奈良利美(太田小)
- ▽六級  
宮崎綾子、清野貴子(十

- 三小)石岡美栄子(脇元小)
- (佐藤藤津之、岡本富士子)
- 吉田順子、角田紀子、糸谷直子、三和直樹、工藤正子(相内小)米谷徹、奈良緑、奈良ちどり、武田広一(太田小)
- ▽七級  
大間裕文、白川勝彦、成納加世子、相坂美智子、加納美香子、本荘由加里、中井裕子、久保田久美子(十三小)葛西照栄(脇元小)木津政男、丁子谷政彦、工藤満弘、青山孝浩、山田司美子、及川幸一、柿崎寿一(相内小)丸山仁、奈良道子、武田正行(太田小)

- 裕子、三上順治、石沢信司、真知子、松木理恵、村山森山田里美(脇元小)奈良佳輝、村山美由紀(相内小)
- 子、佐々木顯仁、三橋健一、丸山功、木村好伸(太田小)
- 新岡初江、山田千里、三和

## 交通安全の一口火

しあわせな家庭を瞬間にして不幸にする交通事故。おそろしい交通事故を避けるためには、各ご家庭のひとりひとりが交通安全について真剣に考え、正しい交通ルールを守ることがたいせつです。夕食のひととき、身近な交通問題を取りあげ、正しい歩行、運転を話し合いましょう。

### ＊ わが家の交通安全 ＊

- 正しい歩行と横断
  - ・歩道のない道路は右側を歩く。
  - ・横断歩道や歩道橋があれば、少し速まわりにわたってここを渡る。
  - ・道路を横断するときは①横断は直角に(斜め横断はしない)
  - ②渡る前に立ち止まり右、左を見て、もう一度右を見て安全を確認する。
  - ③手をあげて合図をし車が止まってから渡る
- 正しい運転
  - ・いつも安全な速度で運転する。
  - ・転差点では、一時停止か徐行して安全を確認する。
  - ・横断中の歩行者に注意し、必ず徐行、一時停止する。
  - ・酒を飲んだら絶対運転をしない。
  - ・わき見運転は絶対しない。



## 電気

### 電気の知識

節電時代です。けい光管や灯具は、少くとも年に一回は掃除しましょう。ホコリやヨゴレがひどいと、電気を食う割に明るくありません。両端が黒くなつたけい光管も寿命です。白熱電灯とちがつてけい光管は断電といても、明るくするコップです。

までも後生大事に使っている家庭もみかめますが、これも電気のムダ使いです。少し体裁は悪くなりますが、けい光管のカバーははずすと、明るさがグッとよくなります。それから電灯の高さを適当にさげること、明るくするコップです。





# 脳卒中と心臓病

高血圧と動脈硬化が起す代表的な病気が脳卒中と心臓病です。  
そして、脳卒中には脳出血、脳硬塞(そく)、くも膜下出血の三種があります。

## 脳出血

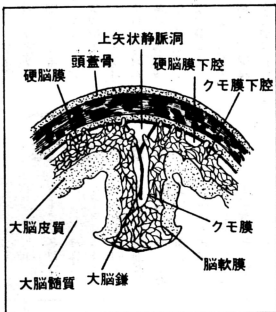
脳出血は、脳にある動脈が硬くもろくなつていって

ころへ、血圧が急に上がった時に起こり、意識を失い、そのまま死亡してしまう人も多い病気です。

## くも膜下出血

また、脳はクモ膜というものでおわれていますが、クモ膜の下、つまり脳の表

面にある小さな動脈にこぶができていると、血圧があがった時破れて、出血しますが、これがクモ膜下出血です。



## 脳硬塞

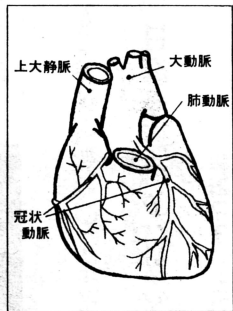
脳硬塞とは、脳の動脈がコレステロールなどで狭くなつているところへ、血の

かたまり(血栓)がつまつたりして、そこから先の組織に、血液がいかないために腐つてしまうのです。脳硬塞には脳血栓と脳栓塞があります。

## 心臓病には狭心症と心筋硬塞

心臓の働きで血液は大動脈を通つて各組織へめぐりだされますが、心臓自体を養う血液は、冠状動脈からおくられます。この冠状動脈が硬化すると、血液の通りが悪くなり、心臓にじゅうぶんな血液がいきわたらなくなります。それがもとで起こるのが心臓病です。心臓病の中でも多いのが狭心症で、運動や仕事で心臓に負担がかかった時、胸をしめつけるような痛みが発作的に起こります。動脈硬化がさらに進んで、血液のかたまりで狭い血管がつまると、そこから先の筋肉には血液がいかなくなるので、その部分は死んでしまいます。

狭心症は発作がすめば心臓はもとどおりになります。が、心筋硬塞では痛みも激しく、血圧がさがってショック症状を起こし、死んだ筋肉はもとにもどりません。



## 国保の保険証を検証します

—有効期限は3月31日—

転出入、出産、死亡等の届け出も

いま、みなさんが使つている国保の被保険者証(保険証)の有効期限は、三月三十一日までです。したがって、四月一日からは保険証の検証をうけなければ、使うことができません。

検証はつぎの日程で行いますから、かならずおいでください。  
被保険者証は、国民健康保険の加入者であることを証明する証明書です。病気やケガをしたとき、医療機関に出して、それぞれの市町村から医療給付を受けられることになっています。つまり、受診券でもあるわけです。  
この保険証の有効期間は一年間です。一年ごとに更新の手続きをしなければなりません。  
また、加入しているかたが、出産、死亡、転入、転出、社会保険の加入、離脱したときは、あわせて届け出てください。

十	三	3月25日	十三	出張所
脇元・磯松		3月26日	脇元	出張所
太	田	3月27日		生活改善センター
相内・桂川		3月28日		役場

◎時間は午前9時～午後3時  
◎持参するもの…保険証、印かん

ふるさと  
の歴史

(22)

市浦村の史跡

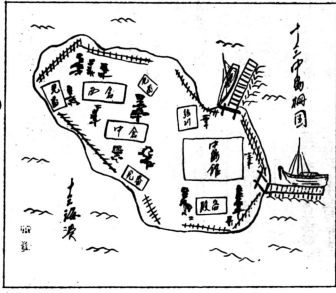
⑨

山内英太郎

中島遺跡

中島は相内川の西、十三湖の北岸の近い湖上に位置する。

安東氏が全盛をきわめた鎌倉時代、福島城の海上における要城であった。保延庚申年(二四)に築城された中島の櫓は伏見城ともいわれた。また、福島城・安東水軍の軍船の駐留地で、出入船の検問所であったが、税関の役割もつとめた。したがって、城櫓は関係者以外は上陸することができなかった。



安東氏全盛のころの中島の遺跡 (古文書による)

小泊港に引き揚げた。昭和三十三年ころ、縄文土器が出土し、往時を物語る資料となっている。全島は埋蔵文化財の遺跡となっている。

阿弥陀如来、薬師如来、釈

長谷寺跡

桂川と太田川の合流する地点、俗称中崎(四軒家向い)に長谷寺があった。

ここからは石地像や人骨が出土したほか、大きな庭石等が散在してあった。この寺は禅林寺と共に平氏の滅亡を供養して安倍次郎と安東高恒が建立し、また、建仁二年(一一三三)十三左衛門尉光光が寺閣として建立したといわれる。

寺は天台宗に属し、山王の札賜所とした。主尊仏は大日如来に似て阿彌如来、釈

迦如来を安置したほか、東西南北に四天王を配してさらに、不動明王を本殿に鎮座したという。

住僧は山王から巡行させ居住者は東日流六郎より参詣する行者二百人の宿となつて、法灯は禅林寺と共に日夜絶えることなく盛んであったといわれる。

長谷寺の水に清むる吾が罪ぞ流れば西えなん

海に消えなん田川の三流は下流で相内改となる

壇臨寺跡

十三湊入間崎明神の本坊である湊迎山壇臨寺は、安倍義季が再興した寺であった。

水戸口船橋の西にあって十三秀栄が開山、文治二年(一一二六)八月に落慶したとして隠居寺と称した。秀栄は七十二才で隠居し、福島城を息子秀元に譲り、入道して来瑞と名乗り、寺住第一世となった。

秀栄と秀元はここに埋葬されたという。

窓の戸籍



丈夫な赤ちゃんに育ててください

- 葛西 新一(磯松 洋太郎)
- 上野 義正(十三)兼 義
- 武田 宗大(太田 照雄)
- 笹山 靖子(脇元 善三)
- 三和 暢子(相内) 豊
- 中村 一朗(脇元) 達也
- 小田桐 傑(脇元) 達也
- 小寺 雅也(相内) 敏
- 山内麻起子(相内) 守栄
- 佐々木康成(磯松) 治己
- 鳴海 利音(相内) 正毅
- 吉田 純也(相内) 弘藏
- 村元 也恵(磯松) 弘藏
- 成田衣千子(脇元) 茂広
- 本間みゆき(十三) 俊一
- 松木 芳久(十三) 紀久夫
- 人生第二のスタート
- を祝福します
- 秋田谷輝一(木造)
- 中島 良子(十三)
- 山田 精一(脇元)
- 成田久美子(脇元)
- 成田 孝雄(中里)
- 鈴木 良子(相内)
- 渡辺 文昭(脇元)
- 米谷ゆき子(相内)
- 浜田 昭義(十三)
- 亀田 葉子(十三)
- 萬西 茂紀(脇元)
- 秋田谷範子(桂川)
- 伊南 辰雄(磯松)
- 白岩ちか子(下前)
- 台丸谷慶三郎(稲垣)
- 奈良美代子(磯松)
- 佐藤 進吾(相内)
- 野上 秀子(車力)
- 野上 和昭(脇元)
- 橋本美枝子(東京)
- 願んでおくりやみ
- 申し上げます
- 小野与之吉(磯松) 70歳
- 三上勇之助(相内) 72歳
- 三和 清吾(相内) 78歳
- 工藤 銀蔵(相内) 63歳
- 奈良 フサ(太田) 76歳
- 長谷川ツエ(十三) 67歳